



# 「齋藤分小学校・二谷小学校」 建替えに伴う学校規模適正化等 検討部会 ニュース

発行日：令和4年12月12日（月）  
発行元：「齋藤分小学校・二谷小学校」  
建替えに伴う学校規模適正化等検討部会  
（事務局：横浜市教育委員会事務局施設部）

## はじめに

本市の学校建替事業は、平成29年5月に策定した「横浜市内小・中学校施設の建替えに関する基本方針」に基づき、取組を進めています。

今年度、二谷小学校は、最も古い校舎棟が築65年となり、目標耐用年数の築70年が目前に迫っているため建替えに向けた検討を行っています。また、同基本方針では、学校建替えに併せて学校統合も検討するとしているため、地域、保護者の代表及び学校長からなる検討部会を設置し、小規模校（一般学級の児童数191名・7学級／令和4年5月1日現在）となっている隣接の齋藤分小学校との学校統合も含めた検討をしています。令和4年10月3日に第4回検討部会を開催しましたので、部会での検討状況等について、両校の通学区域内にお住まいの皆さまや保護者の皆さまにお伝えします。

### 第4回検討部会

日時：令和4年10月3日（月）  
18時30分から  
会場：六角橋地域ケアプラザ  
2階 多目的ホール



## 第4回検討部会での決定事項など

- 第5回検討部会では、第4回検討部会の資料や委員の意見等を踏まえ、引き続き、学校統合の方向性について議論することになりました。
- 第5回検討部会開催までに、齋藤分小学校に関する部会委員と事務局とで意見交換をする場を設けることが決定されました。

※会議の公開・非公開について

検討部会による協議の結果、第4回検討部会は公開で行われました。

## 【委員の任免等】

検討部会委員のうち1名の方について、役員交代等の理由により、退任の申し出をいただいたため、横浜市学校規模適正化等検討委員会条例第5条第2項に基づき、新たに1名の委員を任命しました。

### 1 退任した委員（敬称略）

氏名	選出区分	役職名等
尾崎 恵子	保護者代表	齋藤分小学校 PTA 前会長

### 2 任命した委員（敬称略）

氏名	選出区分	役職名等
大木 亜矢子	保護者代表	齋藤分小学校 PTA 会長

## 【建替えに伴う学校規模適正化等の検討について（議題）】

第4回部会の資料は、部会において部会委員の皆さまに御検討いただくために事務局で検討、作成し、御提供したもので、内容については決定事項ではありません。

なお、部会ニュースの作成にあたって、紙面の都合上、一部を抜粋して掲載しています。

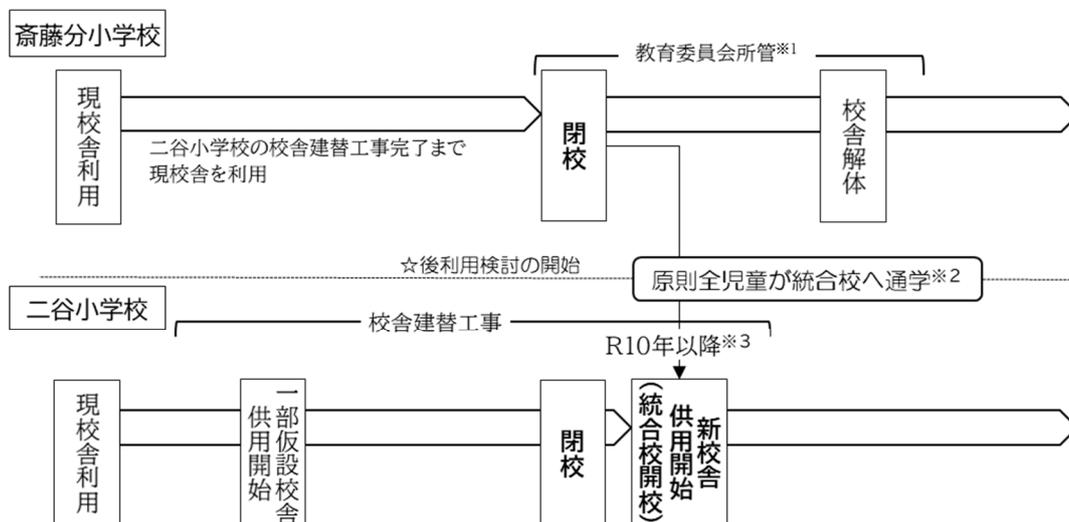
### 1 二谷小学校の建替えに伴う今後の流れ（部会での主な意見：☆5～9, 14～15）

仮に斎藤分小学校と二谷小学校の学校統合を行う場合、二谷小学校の建替工事完了まで、それぞれの現校舎を利用します。新校舎の供用開始に合わせて両校閉校し、新たに統合校を開校します。

仮に学校統合を行わなかった場合、二谷小学校は、建替工事完了までの間は現校舎を利用し、新校舎供用開始後から、新校舎を利用します。なお、既存体育館は建替えません。（別紙参照）

一方、斎藤分小学校は、学級数が適正規模である12学級以上とならない限り、建替えを実施することはありません。そのため、児童等の安全等を考慮し、学校運営に必要な保全等を実施しながら現校舎を利用し、いよいよ校舎の維持が困難と見込まれた時から、閉校に向けた準備を行い、二谷小学校、神橋小学校、南神大寺小学校での児童の分散受け入れ等の検討を行うこととなります。

#### （1）仮に学校統合を行う場合

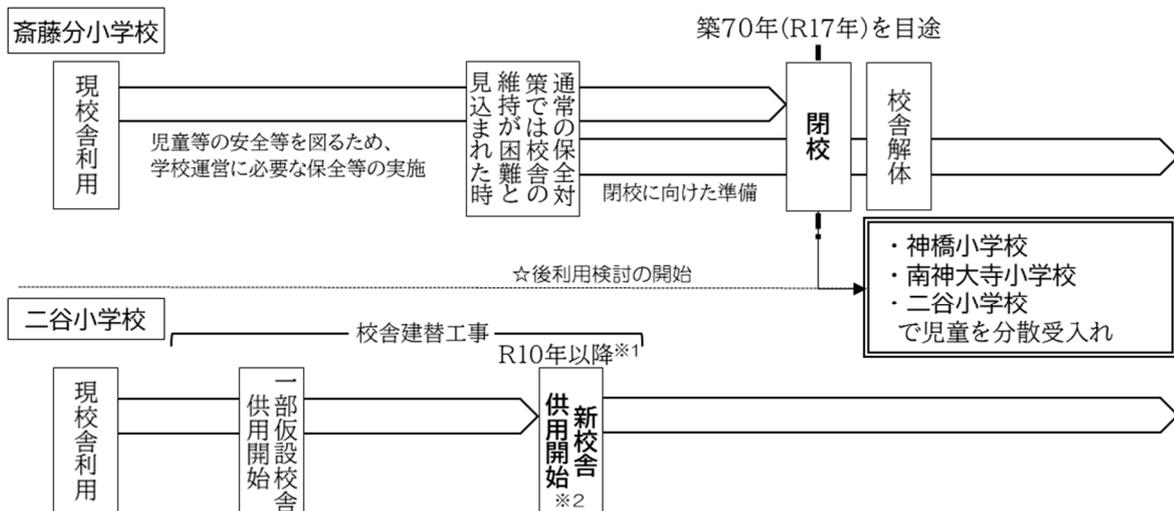


※1 閉校後の後利用施設が利用開始するまでの暫定利用が可能となるよう調整(地域防災拠点、学校開放等)

※2 特別調整通学区域を設定した場合、対象地域の児童は統合校のほか受入校から選択

※3 統合校開校年は、検討当初の想定

#### （2）仮に学校統合を行わない場合



※1 新校舎供用開始年は、検討当初の想定

※2 既存の体育館を使用

## 2 統合を経験した児童・保護者・地域の声

### (1) 平成 24 年度学校統合意識調査結果の様子 (部会での主な意見：☆16)

平成 24 年度に、学校統合を経験した児童と保護者にアンケート調査を実施し、学校規模の適正化による効果検証を行う調査が行われました。その際の児童及び保護者に行ったアンケート結果の一部を紹介いたします。

#### 調査対象

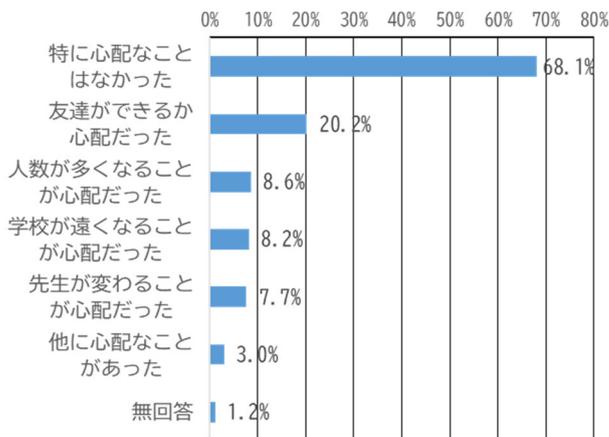
対象校:野庭すずかけ小学校、瀬谷さくら小学校、四季の森小学校

対象者:学校統合を経験したと想定される在校生、卒業生(中学生)、保護者

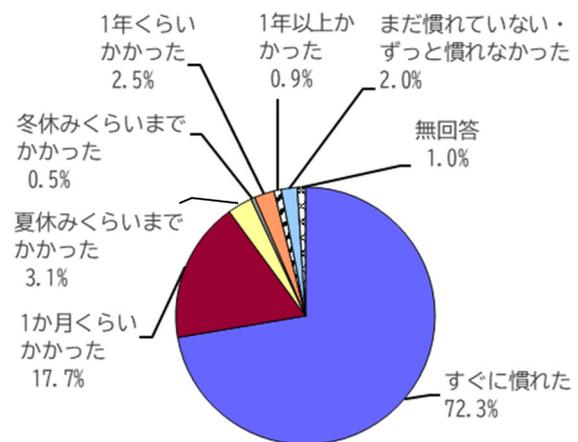
対象人数:在校生・卒業生 1,044 名、保護者:1,044 名

#### ア 児童

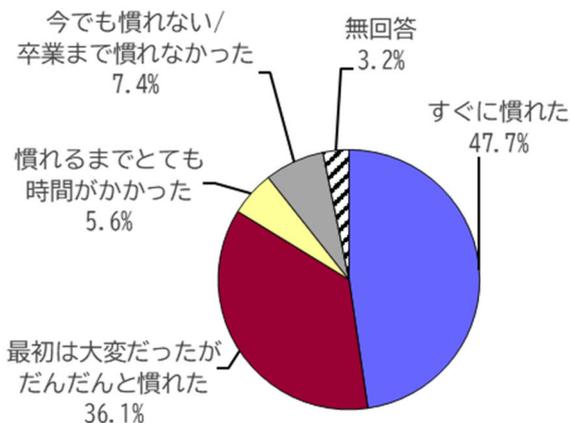
##### (ア)統合前に心配だったこと



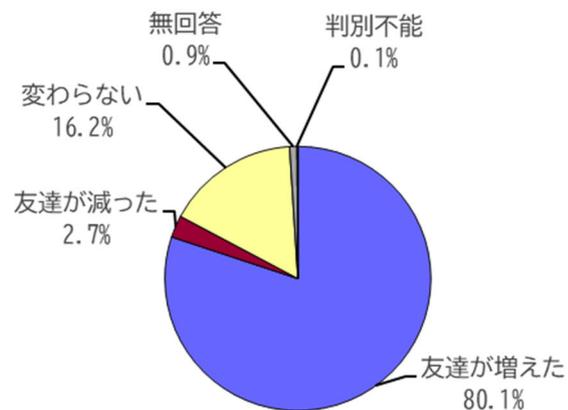
##### (イ)統合後の学校に慣れるまで



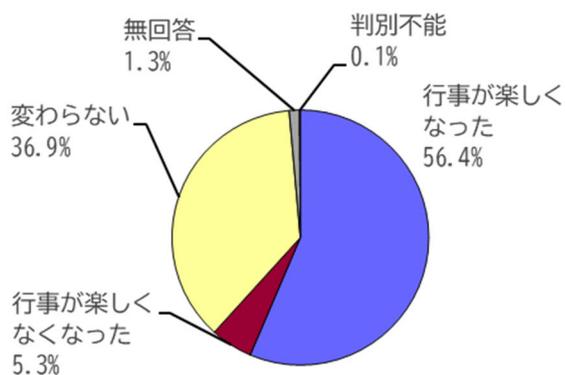
##### (ウ)通学路の変更慣れるまで



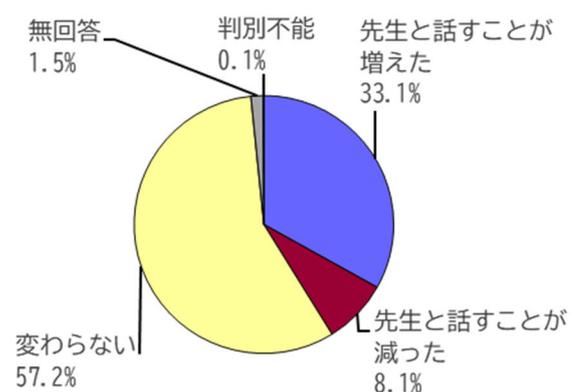
##### (エ)友達の数の変化



##### (オ)行事の楽しさ

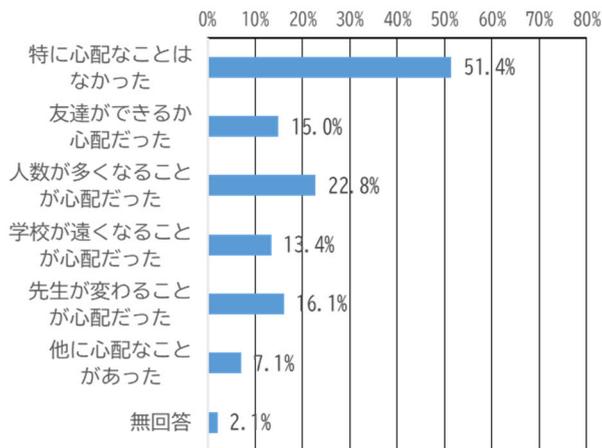


##### (カ)先生と話す頻度

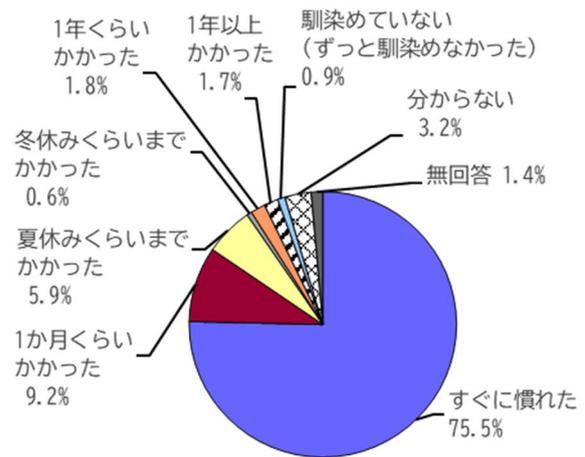


## イ 保護者

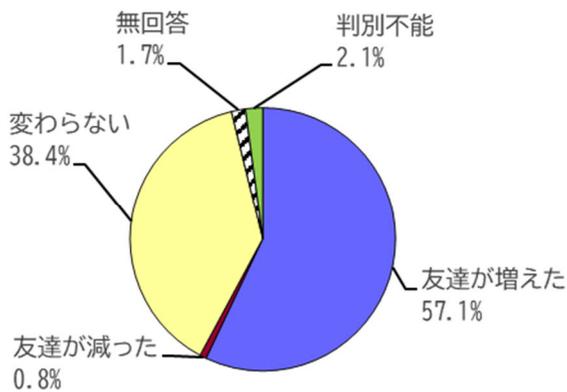
### (ア)統合前に心配だったこと



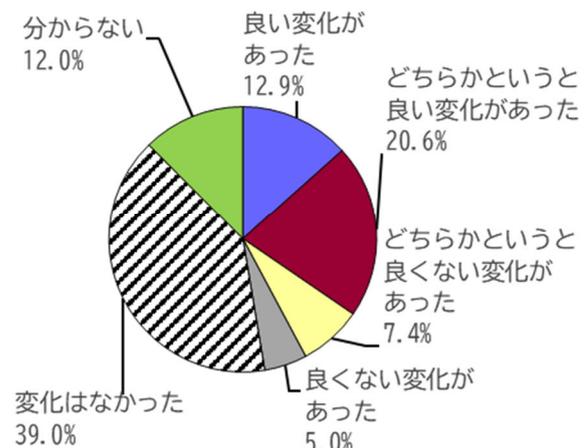
### (イ)統合後の学校に子どもが慣れるまで



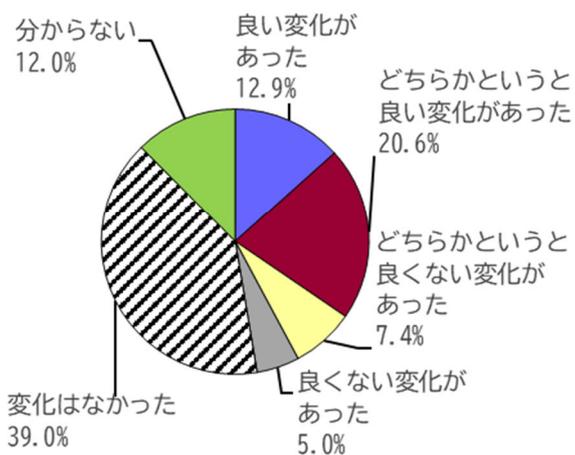
### (ウ)友達の数の変化



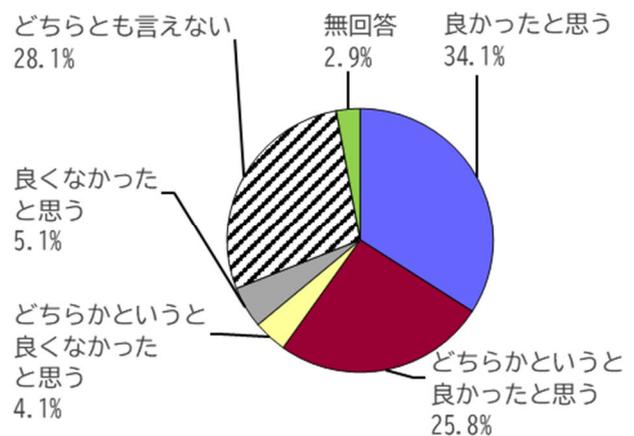
### (エ)学校行事の様子の変化



### (オ)PTA活動などの負担の変化



### (カ)統合してよかったか



## (2) 直近で開校した統合校の児童、保護者、地域の声（部会での主な意見：☆1～3）

令和3年4月に旧池上小学校と旧菅田小学校が統合し開校した、菅田の丘小学校の皆様にご協力いただき、統合前後の様子や気持ちについてヒアリングしました。

児童	<ul style="list-style-type: none"><li>◆統合前後の変化<ul style="list-style-type: none"><li>・ 全体的に友達が増えて楽しい。</li><li>・ 学校が、全体的に活気が増えてにぎやかになった。</li><li>・ これまで1クラスでクラス替えがなかったが、3クラスに増えたことが良かった。</li><li>・ 人数が増えて授業がにぎやかになった。</li></ul></li><li>◆統合校に慣れるまでの時間<ul style="list-style-type: none"><li>・ 最初はそれぞれの学校ごとにグループになっていて、グループ同士の壁があった。</li><li>・ 幼稚園で一緒だった友達と再会できたため、すぐに馴染んだ。</li><li>・ 中休みの時間にゲームに誘ったりして遊ぶうちに仲良くなって、いつの間にか馴染んだ。</li><li>・ 通学路が変わって、最初は不安だった。</li></ul></li><li>◆統合校の未来像<ul style="list-style-type: none"><li>・ 皆が健康で楽しめる学校にしたい。</li><li>・ 学年を問わず楽しめる学校にしたい。</li><li>・ 地域との関わりが深い学校にしたい。</li></ul></li><li>◆統合したことに対する感想<ul style="list-style-type: none"><li>・ 統合前はもう少し仲間が欲しいと思っていたので、一緒になって仲間が増えたことが嬉しかった。</li></ul></li></ul>
保護者	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 子どもが新しい学校に慣れるまで、それほど時間はかかっていなかったと感じた。また、遊び方なども特に変化はなかった。</li><li>・ 運動会では、学年ごとの種目ができたことや、学年全体で一体となったダンスなどのパフォーマンスが行えたことなど、これまでなかったスケールの大きさに感動した。</li><li>・ 新しいPTA組織を立ち上げるにあたっては、この先の統合校の活動を見据えて、最適な体制を取るために、統合校開校時にすぐに立ち上げるのではなく、準備に時間をかけた。</li><li>・ 地域の見守り隊も、両校の地域が一つになって積極的に動いていただいている。</li><li>・ 学校統合するにあたって通学路の心配があったが、学校が始まるまでに通学訓練などが行われたことで、懸念事項を整理することができた。</li></ul>
地域	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 通学路は新校舎になっても同じなので、今後の通学安全対策を考えていきたい。</li><li>・ 統合が子どもたちの生活に影を落としているのではないかと懸念していたが、全く感じられなくて安心した。</li></ul>

### 3 児童・生徒数が微増、又は横ばいの中で統合した事例

これまで統合した学校のうち、児童・生徒数が微増、又は横ばいの中で統合した学校は、左近山第二小学校、上菅田小学校、笹山小学校、吉田中学校、上郷中学校の4例、5校です。

※1 網かけの学校は、児童・生徒数が増加していた学校

※2 当時の学校規模適正化等検討部会で示していた各校の推計値

#### (1)【H25年統合】横浜吉田中学校(旧富士見中学校・旧吉田中学校)

・旧富士見中学校 (単位：人、学級)

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
生徒数	224	203	180	157	156	158	156
学級数	6	6	6	6	6	6	6

・旧吉田中学校 (単位：人、学級)

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
生徒数	218	235	232	230	228	227	233
学級数	6	7	7	7	6	7	8

#### (2)【H25年統合】左近山小学校(旧左近山第一小学校・旧左近山第二小学校・旧左近山小高小学校)

・旧左近山第一小学校 (単位：人、学級)

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
児童数	299	295	289	288	289	275	258
学級数	11	11	11	11	12	11	11

・旧左近山第二小学校 (単位：人、学級)

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
児童数	287	307	314	317	319	310	334
学級数	11	11	11	11	11	11	11

・旧左近山小高小学校 (単位：人、学級)

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
児童数	156	149	148	143	125	126	125
学級数	6	6	6	6	6	6	6

#### (3)【H27年統合】上郷中学校(旧上郷中学校・旧庄戸中学校)

・旧上郷中学校 (単位：人、学級)

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
生徒数	252	260	271	271	287	285	277
学級数	9	9	9	9	9	9	9

・旧庄戸中学校 (単位：人、学級)

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
生徒数	157	173	176	186	164	161	146
学級数	6	7	6	6	6	6	6

#### (4)【R2年統合】上菅田笹の丘小学校(旧上菅田小学校・旧笹山小学校)

・旧上菅田小学校 (単位：人、学級)

年度	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
児童数	707	724	735	801	815	814	804
学級数	22	22	23	24	25	24	24

・旧笹山小学校 (単位：人、学級)

年度	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
児童数	98	94	109	107	108	116	114
学級数	6	6	6	6	6	6	6

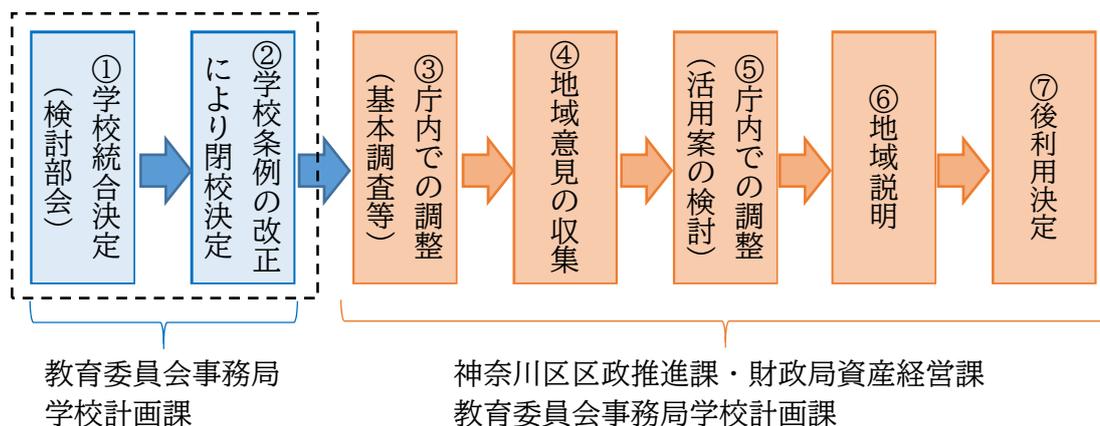
#### 4 後利用の検討の流れ（部会での主な意見：☆19～21）

仮に学校統合した場合の斎藤分小学校の後利用検討は、検討部会における学校統合の決定、教育委員会での統合方針の決定、市会での学校条例改正を受けて、検討を開始することになります。

後利用の標準的な進め方としては、検討の開始にあたり、まずは庁内で土地や建物の基本情報の調査や、公共施設として利用する意向の有無などの調査を行います。その後、跡地における地域課題やニーズへの対応の可能性を検討するため、検討会等の手法により地域意見の収集を行います。そこで取りまとめられた意見を踏まえつつ、再度庁内で検討が行われ活用案がまとめられます。活用案について地域の皆様への御説明を経た後、後利用の方針が決定します。

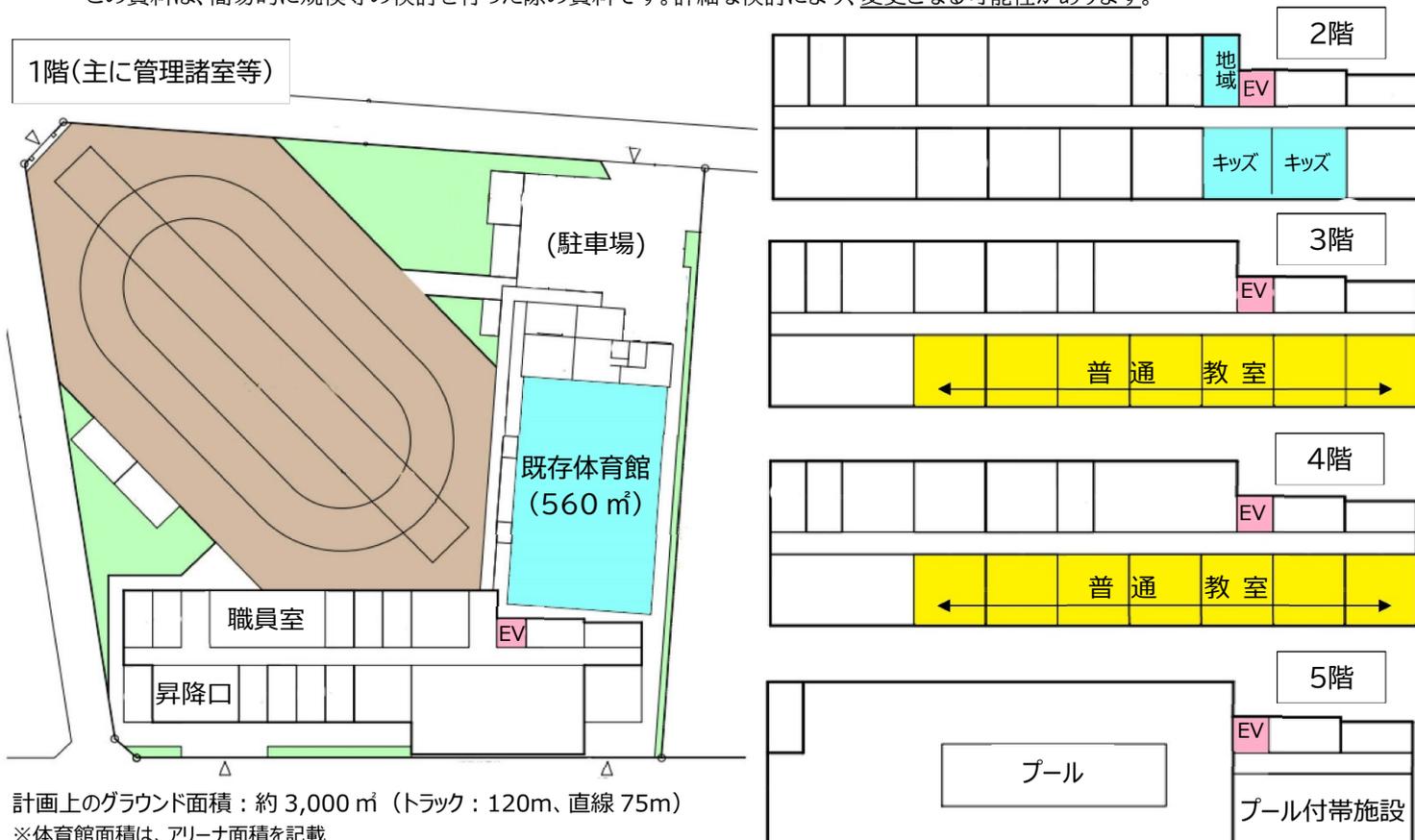
なお、後利用施設の利用開始までの間、学校施設の暫定利用ができるよう調整をしていきます。その際、老朽化等で施設の利用ができない場合があります。

【流れのイメージ】用途廃止施設の活用・処分運用ガイドラインより



#### 5 仮に学校統合を行わない場合の二谷小学校の建替えイメージ（普通教室 14 学級想定） （部会での主な意見：☆10, 11）

この資料は、簡易的に規模等の検討を行った際の資料です。詳細な検討により、変更となる可能性があります。



### 【第3回検討部会以降に寄せられた意見】（凡例 ◆：意見 ⇒：事務局からの回答）

第3回部会から第4回部会（令和4年10月3日）までに寄せられた御意見が6件ありました。

- ◆ 統合校の通学区域に関して意見を言いたい。現在子どもが斎藤分小に通っており、片道25分かかっている。熱中症になりかけ、保健室で休むときがある。六角橋四丁目に住んでおり、仮に統合し、二谷小まで通うことになった場合、片道28分かかると配布された資料で拝見した。今よりも通学距離が遠くなり、週初めには給食等を持参し、さらに熱中症対策として水筒も子どもに持たせるため、とてもじゃないが統合校へ通うのは難しい。統合になる場合は絶対に選べる地域に設定して欲しい。まだ小学校に通っていない子どもがいるが、途中で転校する必要がないよう、統合校完成前から近隣校へ通えるような通学区域の設定も併せてお願いしたい。六角橋四丁目の地域からかなり要望の声は多い。
- ◆ 次の通り、意見を述べさせていただきます。二谷小学校と斎藤分小学校を統合し、新小学校を創設し、新校舎は斎藤分小学校を改築する形で建設する。二谷小学校跡地に神奈川区役所を移設新築し、神奈川区民の利便性を向上させる。
- ◆ 統廃合に向けては反対のものです。資料を見ていると統合に向けて、（統合ありきでの）話し合いのようを感じてしまいます。斎藤分町に住んで、斎藤分小学校に子ども達が通っていますが、斎藤分小学校の児童を何校かに分散して通わせればいいというような記載がありますが、子どもたちの人間関係や、友情を考えるととても機械的で安易な発想のように思えます。現在、日本の総人口が減っており、子どもの人数を増やしていこうという流れと検討部会の、児童数が微増している小学校を統合していこうという流れが逆行しているように思います。子どもを何人産んでも、安心して育てられる、安心して保育園、幼稚園、学校に通わせられる、安心して受け入れてくれる自治体、そういう安心がないと、これからの若い人たちは子どもを増やそうという気にならないのではないのでしょうか。斎藤分町にも新しく若い世帯が引っ越してきていますし、支援環境さえ整えれば子どもも増えていくと思いますので、日々働いて納めている税金をそういう方向に使って頂けたら幸いです。
- ◆ 合併は反対です。反対の理由としては、
  - 1 人数が少ないからこそその良さがある。斎藤分小学校は人数が少ないです。ですが、そこに良さがあります。一人一人に寄り添い、低学年から高学年までみんなが仲良く、フレンドリーな雰囲気です。
  - 2 地域の人との支え合い。斎藤分小学校は丘の上にあり、車の通りもあります。そこで地域の方々が子どもを守り、見守るために朝早くから横断歩道の警備をして下さっています。そして大切なのは、災害があった時。神奈川県はあと数年で大きい地震が発生すると予測されています。地域との繋がりがあり、災害があつて斎藤分小学校に避難してきて、お年寄りや子どもなど私たちが不安な中に知り合いや知っている顔が居ると、安心できるし、何かあった時に、手を取り合えると私は思っています。
  - 3 二谷小学校には二谷小学校の雰囲気、斎藤分小学校には斎藤分小学校の雰囲気があります。あつてはならない事ですが、いじめや、学校に居場所がなかったり合わなかったり、様々な理由でほかの学校に転校する手もあります。大人数でもやって行ける子もいます。ですが大人数が苦手な子もいます。そこで色々な学校があつていいと思うんです。色々な人がいて、それに合わせて不登校で家に引きこもってしまうしかない子達が少しでも選べるように、未来を広げる為に、大人達が支えて少しでも居場所を見つけられるように見守り支えてあげることが大切だと今まで経験したことから学びました。そしてここからは私が疑問に思っていることを書きます。これからの未来を作っていくのは子ども達です。子どもたちから良い教育環境や、自然を学び色々なことを経験する場所を取り上げて、どこにお金をかけるんですか。合併をしなかった場合の案が脅しです。なんですか。単独閉鎖って。なぜ二谷は補強工事がされて斎藤分は補強工事なしで周辺校受け入れって。ふざけるな。そちらの都合で勝手に決めないでいただきたい。子ども達の今まで作ってきた居場所や友人関係、雰囲気を大人のお金や世界の教育理想で壊さないで欲しいです。日本の、この街に合った教育をしていくべきだと思います。子ども達の声聞いて欲しいです。大人が子どもの為にやっている事なら子ども達の生活のそのままの意見を聞いて欲しい。地域の町の大切な斎藤分小学校を廃校にしないでください。

◆ 私は統合に賛成ですが、「小中の学区不一致問題」があると認識しています。六角橋中学校はほとんどが神橋小学校出身と認識しておりますが、二谷小学校と統合することにより、更に少数派に属する可能性があるという認識です。本来であれば栗田谷中学校に通えるのが理想であります。可能であれば、これを機に中学校の学区を含め、「小中の学区不一致問題」を解決していただくと大変ありがたいです。特に、この統合期間中の学区境界地域に所属する児童に関しては、特段の配慮をいただくと安心して進学ができると考えております。この統合期間に兄弟間での不整合も起きそうですし、「特別調整通学区域」に関しては、当該児童に不利益が起らないよう調整いただけますと大変助かります。

◆ 統合には基本反対です。子どもは斎藤分小学校に通いましたが、当時二谷小学校の話を聞いて斎藤分小学校より人数が多い事で、子どもたちが大変そうな思いをしていた話を聞く事が多かったので、少人数学校の有難さを何度も感じたものです。大人の都合だけで適正人数を決める国、教育委員会の考えはやはりこれからの日本の教育を考えるうえで見直して行って欲しいと願わずにはられません。閉校後の斎藤分小学校の後利用についてですが、斎藤分小学校は地域の防災拠点となっていると思いますが、建て替えの予定がないとなった場合、建物は耐震補強などで補うといった事になるのでしょうか。その際、もう小学校ではないため教育委員会は関係ないということになるのでしょうか。新しい二谷小学校の校舎についても津波が心配な地域ですが、もし津波が来た場合の事は想定されて作られるのか不安です  
⇒ 閉校後の斎藤分小学校の校舎につきましては、後利用が決まるまでの当面の間は教育委員会で管理いたします。また、二谷小学校は津波の浸水予測区域ではなく、津波の心配はありません。

※ お寄せいただいた御意見等は、全て検討部会にて報告しています。なお、紙面の都合上抜粋して掲載しています。

## 【部会における主な発言や質問】(凡例 ☆：委員等からの主な発言 ⇒：事務局からの説明・回答)

### 【第4回の資料について】

☆1 資料5の2(2)〈本紙 P.5〉について、児童、保護者、地域の声には、個別支援学級の子どもの声や親の意見は含まれているのでしょうか。また、統合によって不登校が増えたかどうかはわかるのでしょうか。そういう子どもたちの声が聞きたかったです。

⇒ 個別支援学級の児童は入っていません。児童に関しては、委員会等の児童を代表して御意見をいただきました。また、統合によって不登校が増えたかどうかについての資料はありません。

☆2 資料5の2(2)〈本紙 P.5〉について、児童と保護者、地域はそれぞれ何名の方に聞いたのでしょうか。

⇒ 児童は9名に参加していただき、保護者は PTA 会長お一人にお聞きしています。また、地域については、学校運営協議会の中でお話しのあった内容を学校に御紹介いただいたものになります。

☆3 資料5の2(2)〈本紙 P.5〉について、このアンケート結果は私どもが前回求めたアンケートとは呼べないと考えます。学校長や地域を通してアンケートを配って回答いただく等でなければ、信頼性に欠ける内容だと思います。

☆4 資料3の3～4ページについて、案のアからエまでありますが、案のアとイに対して、この地区の方は相当アレルギー的な反発等を持っているので、案アと案イは不要ではないかと考えます。

☆5 資料5の1(2)〈本紙 P.2〉の「仮に学校統合を行わない場合」の斎藤分小学校のフローチャートに関して、「通常の保全対策では校舎の維持が困難と見込まれた時」とは、どういう調査をして、いつ頃、そうなるのでしょうか。

⇒ 校舎の老朽度を測る調査はいろいろありますが、1つは、コンクリートの中性を測って、どのぐらい中性化が進んでいるか調査して、耐久度を調べるものです。古くなってくると、徐々に様々な補修が必要になってくると一般的に言われていますが、補修の頻度などを総合的に考えて判断します。その目安が大体 70 年です。

☆6 地元が地域全体として要望を出しても、小規模校を建替えない方針は変わらないということですか。

⇒ 現行の方針ではそうです。

☆7 (建替えの計画をつくるときの学級数の想定については)建て替えが終わるときではなく、10年、20年先にどうなるかを考えて、計画しないのですか。

⇒ それほど先は見えていません。建替えに関する国の補助金は申請時から2年先程度までは見ても良いことになっていますが、建替え時の学級数で整備するのが大原則になっています。補助金交付の条件となる期間から先の学級数の推計値を基にした計画は通常はしておりません。

☆8 国の補助金が必要なことも分かりますが、横浜市として子どもに対してお金をある程度掛けても、反対意見は出ないと思います。色々なやり方があるとは思いますが、建替えの際に直近のクラス数を想定して建設するのは、少し計画が甘いのではないかと思います。

☆9 資料5の1(2)「仮に学校統合を行わない場合」<本紙 P.2>について、12学級にならない限り、建替えはしませんという御説明だったかと思いますが、東京の城東小学校で、小学校を複合化し、建物も建て替えたというニュースを見ました。この小学校も単級なので、普通学級は6学級しかありませんが、複数学級化も行っていきます。横浜市もこうした状況を踏まえて、現在の基本方針の見直しを行う考えはないのでしょうか。

⇒ 城東小学校は、特認校という特別な制度を使っています。この学校は(東京の)中央区内であればどこからでも通っていいということになっていますが、実験校的な位置づけであると認識しています。横浜市では、今のところ、こうした取組を行う予定はありません。

☆10 別紙2<本紙 P.7>の仮に統合しなかった場合の二谷小の建て替えイメージについて、(統合した場合)同じく5階建てとのことですが、なぜ体育館を建て替えないのでしょうか。

⇒ 既存の体育館が比較的新しく(築36年)、調査等の結果から、あまり老朽化が進んでいないことがわかり、国の補助金が入りません。仮に統合する場合は19学級となるので、敷地内に19学級分の校舎を収めることや基準上も体育館のアリーナ面積は720㎡に広げる必要があるため、体育館も建て替えを行います。一方、学校統合しない場合では、基準でも現状の560㎡で足りるため、かつ、補助金が入る老朽度ではないため、建て替える必要がありません。統合しない場合、体育館を建て替えないで成り立つか検討したところ、5階建てにすれば成立することが分かったため、別紙2<本紙 P.7>のようにイメージ図を載せています。

☆11 別紙2<本紙 P.7>について、体育館の耐用年数は何年ですか。

⇒ 体育館は鉄骨造ですが、耐用年数は基本70年と考えています。鉄骨は保全すればさらにもつ可能性はありますが、老朽化が進めば、大規模改修は必要になるかもしれません。(現在の体育館築年数:36年)

☆12 統合の必要性の根拠として、小規模校の先生の負担の多さがありましたが、小学校教育の安定的な遂行や、先生方のワーク・ライフ・バランス実現の本質的な解決策は、教育現場での業務改善の推進であり、統合で解決できる話ではないと考えています。

⇒ 第1回の部会等で、小規模校の特徴・課題として、授業の内容や指導について相談できる機会が減って、一人の教員が担当する事務作業が多くなるという説明をしました。これは横浜市だけでなく、全国的に小規模校の課題として挙げられているものです。この点については、残業時間が減ることよりも、相談できる相手がいないという課題が、相談できる相手ができて解消され、子どもたちの教育が進みやすくなるという効果はあると思っています。

☆13 学校統合することで、先生方の業務負担が軽減され、超勤時間が直ちに減るのではないという理解でよろしいでしょうか。

⇒ 横浜市では働き方改革として、教員の超勤時間をできるだけ減らす取組をしています。その取組では、学校の規模に関わらず、勤務時間を減らすよう取り組んでおり、小規模校だから超勤時間が多い、標準的なところは少ないということではありません。

☆14 資料5の1(2)<本紙 P.2>「仮に学校統合を行わない場合」の斎藤分小学校のフローについて、「通常の保全対策では校舎の維持が困難と見込まれた時」と記載がありますが、困難と見込まれなかった場合は、最終的に築70年のめどが延びる可能性もあるということではよろしいのですか。

⇒ いつかは困難な状態になると思いますが、それが70年なのか、70年より前なのかは、校舎によって違いますので、その辺を調査しながら決定していきたいと考えています。校舎の状態によっては、70年のめどが延びる可能性もゼロではないと思います。

☆15 12 学級にならないと建て替えないという話について、基本方針の中には、「地域特性なども踏まえる」と記載されていたと思うのですが、そこはどのように活かされてくるのでしょうか。

⇒ 小規模校でも、通学エリアがとても広い学校もあり、その学校がなくなってしまうと、かなり通学距離が伸び、例えば4キロ歩かなければならないといったことが想定される学校もあります。そうした場合には考慮することもあります。基本的に神奈川区のような都市部では、そういった学校はないと思います。

☆16 資料5の2(1)〈本紙 P.3〉のアンケート調査結果について、アンケート対象校の地域に詳しくありませんが、どこも大きな団地や戸建ての分譲地のある地域と見受けられ、山坂はあるとしても斎藤分ほどの地域ではないかと思っています。資料からは通学時間が読み取れないため、通学路が変わってすぐに慣れたと言われても、市にとって都合が良い結果が出るような学校にアンケート調査を行ったように感じてしまいます。また、菅田の丘小学校については、統合後も通学路が同じということでは、斎藤分小学校との比較はできない印象を受けます。

⇒ 平成24年度のアンケート調査は、直近の3地域を対象としたという当時の記録が残っており、都合の良い地域を選んだものではありません。また、菅田の丘小学校の通学路については、現在受入れる小学校の建替えを行っており、仮校舎として旧菅田小を使用しているため、通学路が変わっていないという御意見がありました。

☆17 現在、二谷小学校は1～2年生が各3学級、3～6年が各2学級で 14 学級ですが、個別支援学級は学級数に入れないのでしょうか。

⇒ 個別支援学級は普通学級 14 学級とは別に教室を確保しています。

☆18 大人も当然十分に考えますが、子どもたちはきっと与えられた環境でしっかりやるのだと思います。大規模校になれば当然、無関心な人も増えてくると思います。ただ、きちんと見ていただける人は地域にもいますし、保護者にもいますし、学校の規模が変わってもそこは変わらないと思います。統合して学校の規模が大きくなって、地域の人たちの目は大事ですし、保護者と地域の関係、子どもたちと地域の関係、学校と地域の関係はやはり大事だと思いますので、今与えられた情報で考えるしかないと思っています。

そして、与えられた情報から考えると、恐らく斎藤分小学校は、昭和 33 年の設立のときの役目は終わっているのだと思います。ただ、地域としては、小学校が必要なのかもしれません。今、子どもが少なくなったから、閉校というのは地域の方が納得いかない。横浜市が 70 年をめでに終わりを決めているという、今の状態を考えないと、我々がお金を払って建ててもらうものではないですし、この学区だけを無理に建ててもらうものでもないと思うので、そこはやはり我々は考えなければいけないと思います。

ただ、それは私が二谷小の立場だからだと思います。もし、私が斎藤分小の立場でしたら、反対すると思います。今の在校生の一部は新校舎の工事期間中に卒業することになると思いますし、今後、入学してくる子どものことをと考えると、与えられた情報でよりよいものを作ってあげるのが我々の役割かなと思っています。

☆19 資料5の4〈本紙P.7〉、後利用の検討の流れの最後の段落に、「その際、老朽化等で施設の利用ができない場合があります」という注釈が入っています。後利用が決まるまでの間、例えば校舎の保全などはしてくれるのですかとお尋ねした際、教育委員会で行うので心配しないでくださいとお聞きしていたことと異なることが書かれているのですが、どうしてでしょうか。

⇒ 「老朽化等で施設の利用ができない場合」というのは当面先になると思います。後利用がなかなか決まらない場合について、建物は築 70 年程度までは使えるとは思いますが、その危険が予知された場合は使えなくなりますという意味で記載させていただいています。ほかの地域でも防災拠点や学校開放等、後利用が決まるまでの間は使えるような形で、関係部署と調整していきます。

☆20 仮に統合する場合、地域の方の心配は、やはり後利用です。中でも一番心配しているのは、地域防災拠点がなくなるのではないかということです。地域防災拠点についてはどのようにお考えなのですか。

⇒ 地域防災拠点については、総務局と区役所総務課が所管しています。教育委員会事務局で設置すべき、設置すべきでないという話はできないので、こちらは区役所総務課に回答していただきたいと思いますが、防災拠点に指定されていることを含めて後利用について考えていくという形になると思います。

☆21 1つの学区に地域防災拠点が2か所設定されるような学区は、横浜市内であるのでしょうか。子どもは学校にいるのに親は地域防災拠点で別の場所に行くようなことが実際に行われている学区があるのかどうか教えてください。

⇒ 市全体を細かく把握してはありますが、例えば、(同じ地域の中で)小学校と中学校のどちらも地域防災拠点に指定されている地域はあると認識しております。

☆22 統廃合するにしましなくても、子どもたちのためだけではないと思います。子どもたちにとって、小学校の6年間で成長にとって大変重要な期間であることは十分認識していますが、その6年間で過ぎたら子どもたちは小学校からいなくなります。しかし、生まれた日から小学校に通い始める最初の6年間は地域で暮らしていますし、卒業した後、地域の中学校に行こうが、私立の中学校に行こうが、その子はいわゆる大人、自立するまでは地域にいます。そう考えると、もちろん子どもたちが通う小学校の規模や内装も大事ですが、地域をおさげにして検討を勝手に一部の人の意見で進めていくというのは、斎藤分側の地域からしたら非常に抵抗のある意見が多いということは、ぜひ御理解を頂きたいと思います。

#### 【次回の検討部会の開催及び今後の進め方について】

☆ ここまで回を重ねても、斎藤分側からしたら、まだまだ聞きたいこと、納得いかないことがあります。そもそも進め方が違ったのではないかと御指摘をさせていただきたいと思います。

⇒ この部会の限られた開催時間では、十分にやり取りする時間が確保できませんので、よろしければ、斎藤分側の方としっかり意見交換させていただいた後、次の部会を開催できたらと思います。やりとりに関しては、次の部会でしっかりご共有するなどの対応がとれればと考えています。

☆ (共有はもちろんですが)斎藤分側と教育委員会側だけだと密室のようなイメージを与えかねませんので、この検討部会と同様に公開にすべきです。検討部会と別に実施するというやり方もありますし、第5回検討部会として、主に斎藤分小に関する事について御意見や御質問がない委員の方は出席を必須としないというやり方もあるので、それはこの場にいる皆様方の御意見を聞いてみたほうが良いと思います。斎藤分側では統廃合における心配点がたくさん出てきています。簡単に言えば、後利用などについてです。斎藤分側が抱えている不安点に対してもう少し具体的に突っ込んで話を聞きたいです。少なくとも、委員の私たちが理解できないことを住民の方が理解できるわけがないと思っています。

☆ 部会としての開催にしてしまうと、委員の人は出るべきということになると思いますので、私は検討部会ではない形式で行うということではないかと思っています。形式は異なりますが、この部会の委員は誰でも参加できる形で行い、主に斎藤分側の不安点、心配なことを教育委員会等とやり取りする会ということではないかと思っています。

☆ 賛成の方は手を挙げていただければと思います。

(賛成者挙手)

☆ ほぼ全員賛成ということで、(第5回検討部会開催までに、斎藤分小学校に関係する部会委員と事務局とで意見交換をする場の開催を)お願いできればと思います。

#### ●斎藤分小学校に関係する部会委員と事務局とで意見交換をする場について

日時や会場、検討内容については決定次第、以下のホームページでお知らせします。

#### ◆第5回検討部会について

※会議は公開で行います。傍聴希望の方は、下記ホームページに掲載の会議案内を御確認ください。

日時・会場：未定(決定次第、以下のホームページでお知らせします。)

検討内容：建替えに伴う学校規模適正化等について



#### ◆「斎藤分小学校・二谷小学校」建替えに伴う学校規模適正化等検討部会の経過等について

部会の会議案内や会議録、ニュースについては、ホームページからも御覧になれます。

[http://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-](http://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/sesaku/tekiseika/shokibo/saitobunfutatsuya.html)

[kyoiku/kyoiku/sesaku/tekiseika/shokibo/saitobunfutatsuya.html](http://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/sesaku/tekiseika/shokibo/saitobunfutatsuya.html)



#### ◆事務局(お問い合わせ先)

皆さまからの御意見や御質問を受け付けております。Eメール、電話またはFAXでお寄せ下さい。

横浜市教育委員会事務局施設部

Eメール:ky-kanagawa2021@city.yokohama.jp TEL:045-671-3252 FAX:045-651-1417

